

What's on, Kyodokodo

2012.4.25
No.55



CONTENTS

共同行動からのお知らせ

- 医療安全ワークショップ、詳細プログラムのご案内
 - 「医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門」が始まります
 - 共同行動事務局の住所が4月から変わりました
- フォーラム・セミナー等のご案内

- 成功事例・参考事例を募集しています
→ <http://kyodokodo.jp/> トピックス内
- 質問・提案をお寄せください → advice@ppscamp.net

- 標準化病院死亡比(HSMR)を算出してお知らせします
→ <http://kyodokodo.jp/hsmr.html>
お問い合わせは toHSMR@ppscamp.net
- 参加登録病院用のバナーができました！
→ [パートナーズ専用ページ/トップページ](#)
- 参加登録方法に関するQ&A → <http://kyodokodo.jp/faq.html>
参加登録事項変更等に関するQ&A
→ [パートナーズ専用ページ/Q&A](#)
- キャンペーンポスターをご利用ください
完成版 → http://kyodokodo.jp/shiryoku_koho.html
基本デザイン → [パートナーズ専用ページ/メニュー](#)

共同行動からのお知らせ

医療安全ワークショップ、詳細プログラムのご案内

4月28～29日に京都で開催される医療安全ワークショップ“いのちをまもるパートナーズ”が近づきました。プログラムの内容詳細をご案内いたします。

連休開催に加え、ご案内が遅くなり申し訳ありませんでしたが、今回は、呼吸器下のケア、手術安全など新しいテーマをはじめ、分科会、実技講習でたいへん充実した企画を支援チームにご用意いただきました。

ご高覧のうえ、まだ申し込んでおられない方も(当日参加登録が可能ですので)ぜひご参加ください。

*「診療所の基本手技と輸液ポンプ(実技講習)」「感染対策」「CVの安全操作」は、日を改めて実施することになりました。何とぞご理解ください。

* [公開ページ/トップ](#) からでもご覧になれます。 [詳細案内](#) [参加申込](#)

医療安全ワークショップ“いのちをまもるパートナーズ”

日時：2012年4月28日(土)、29日(日)

会場：京都テルサ府民総合交流センター <http://www.kyoto-terrsa.or.jp/conference.html>

参加費：1万円(交流会費を含む)

※実技講習会(プレワークショップ)を併せて受講される方は1万3000円

(実技講習会のみ参加はお申し込みいただけません)

申込方法：[参加登録フォーム](#)からお申し込みください *当日参加も受け付けます

*ワークショップおよび実技講習会(プレワークショップ)の参加者に参加・受講証を発行いたします。

ープログラムー

プレ・ワークショップ(実技講習会) ▶ 4月28日(土) 13:00～17:00

申込時に下記から選んでください

事例分析実習

【講師】 自治医科大学医学部メディカルシミュレーションセンター

センター長 医療安全学教授 河野龍太郎

【目的】

1. エラー発生メカニズムを理解すること
2. エラー発生メカニズムに基づいて開発されたImSAFER(Medical SAFERの改良型)の手順を理解すること
3. 人間の判断に基づく背後要因の探索方法を理解すること

【プログラム】

- 13:00～14:00 エラー発生メカニズムと分析手順の講義
 14:00～15:00 時系列事象関連図の作成(グループワーク)
 15:00～16:00 背後要因関連図の作成(グループワーク)
 16:00～17:00 対策立案と決定(グループワーク)

これまでの実習はグループごとに作業を完了し発表してもらい、その後、講師が評価やコメントを述べていたが、本研修では、すべて講師の指示に基づいて時系列事象関連図や背後要因関連図を各グループで作成する。すなわち、作業と解説を同時に行う方式で実習をすすめる。

人工呼吸器下のケア(実習)

【講師/ファシリテータ】 鈴木亮太郎(日本光電工業株式会社)／井上勝哉(日本臨床工学技士会)／萱島道徳(奈良県臨床工学技士会)／能芝範子(日本集中治療医学会看護部会/大阪大学医学部附属病院)／大林修文(社会保険中京病院口腔外科)／小泉里佳(株式会社東京技研)／長谷川隆一(公立陶生病院救急部/愛知医科大学病院救命救急科)

【目的と内容】

- ・行動目標5bの内容を実習形式で学ぶ。
- ・項目は主にチャレンジ項目である“警報への対応”と“人工呼吸器関連肺炎(VAP)の予防”を扱う。
- ・グループワークなども取り入れた楽しいプログラムを用意する。
- ・初心者から中級者向け。

【プログラム】

- 13:00～13:05 オープニング/長谷川隆一(公立陶生病院)
 13:05～14:05 グラフィックモニターの見方と演習問題/鈴木亮太郎(日本光電工業株式会社)
 14:05～15:05 アラーム対応(グループワーク)/長谷川隆一(公立陶生病院)、井上勝哉(日本臨床工学技士会)、萱島道徳(奈良県臨床工学技士会)
 15:05～15:15 休憩
 15:15～16:15 人工呼吸中の鎮静方法と鎮静レベル評価の演習/能芝範子(日本集中治療医学会看護部会)
 16:15～17:00 口腔ケアとVAP予防/大林修文(社会保険中京病院口腔外科)、小泉里佳(株式会社東京技研)

ワークショップ ▶ 4月28日(土) 18:00～19:30、29日(日) 9:00～17:00

28日(土)

- (1) 18:00～18:20 開会挨拶&オリエンテーション
- (2) 18:30～19:30 教育セミナー

A. 診療所の安全対策(医科診療所と歯科診療所)

【講師】 高杉敬久(社団法人日本医師会 常任理事)

溝渕健一(社団法人日本歯科医師会 常務理事)

【コメンテータ】 宮本智行(東京医科歯科大学歯学部附属病院 医療安全管理室副室長)

B. 改善のためのチームプロジェクトの実際

【講師】 安藤廣美(飯塚病院(特任)副院長)
井上則雄(株式会社竹中工務店 大阪本店 TQM推進事務局)

C. 肺塞栓予防のための抗凝固療法の安全管理

【司会】 瀬尾憲正(美術館北通り診療所院長、香川大学医学部臨床教授)
【講師】 中村真潮(三重大学大学院臨床心血管病解析学教授)

29日(日)

(3)9:00~10:40 全体セッション「安全目標を実現するために」

改善チームによる課題別プロジェクトの進め方と指標の活用

(4)11:00~13:00 目標別分科会A(科目から選択)※

(5)交流会(昼食時)

(6)14:00~17:00 目標別分科会B(科目から選択)※※

目標別分科会A ※申込時に下記から選んでください

目標1 危険薬の誤投与防止

【講師/ファシリテータ】 齋藤泰紀(仙台医療センター副院長)/中村浩規(東北公済病院薬剤科)/
新岡琢也(つがる西北五広域連合西北中央病院薬剤部)/平田敦宏(松下記念病院薬剤部)

【目的と内容】

この度、How To Guide をマイナー改訂しました。そこで、改訂内容を中心に誤投与防止対策の再確認とともに、日常業務で防止対策を積極的に取り入れている施設から具体的な取り組み事例として紹介して頂きます。また、事例紹介後にパネルディスカッション形式で講師やチームメンバーが、参加者からの質問や相談にお答え致します。

- How To Guide 改訂について
中村浩規(東北公済病院薬剤科)
- 危険薬誤投与防止対策の紹介(1)
入院時持参薬の安全管理、危険薬の啓発等
新岡琢也(つがる西北五広域連合西北中央病院薬剤部)
- 危険薬誤投与防止対策の紹介(2)
救急カートの整備、インスリンスライディングスケールの標準化等
平田敦宏(松下記念病院薬剤部)

目標2 周術期肺塞栓症の予防

【講師】 瀬尾憲正(美術館北通り診療所院長、香川大学医学部臨床教授)/小林隆夫(浜松医療センター院長)/保田知生(近畿大学医学部外科講師、附属病院医療安全対策室副室長)

【内容】

主題「周術期肺塞栓症予防のための実践トレーニング」

【プログラム】

1. 講義(11:00~11:50) 司会/瀬尾憲正
 - ①周術期静脈血栓塞栓症の発生状況と今後の展望/瀬尾憲正
 - ②各種予防効果と合併症対策/保田知生
 - ③ヘパリンCa自己皮下注射の適応と導入方法/小林隆夫
 - ④質問時間
- 休憩 ——

2. グループ演習(12:00~13:00) 司会/保田知生

実際の症例にもとづいて、リスク評価と具体的予防方法の計画を行います。

下記の2症例について5~6人でのグループ演習を行い、周術期を通した予防対策を計画して頂きます。(12:00~12:45)

症例1 人工股関節置換術の周術期血栓予防対策について

症例2 早期胃癌に術前深部静脈血栓症合併した症例の周術期血栓予防対策について

グループ発表(12:45~13:00)

協力企業：持田製薬株式会社

目標5 医療機器の安全な操作と管理

【講師】 田村富美子(日本クリティカルケア看護学会/聖路加国際病院)/杉山良子(日本赤十字社事業局医療事業部医療安全課長)/高木政雄(日本臨床工学技士会/茅ヶ崎徳州会総合病院)/宇都宮明美(日本集中治療医学会/聖路加看護大学)/磨田裕(日本呼吸療法医学会/埼玉医大国際医療センター麻酔科)/長谷川隆一(公立陶生病院救急部/愛知医科大学病院救命救急科)/青野多聞(彦根市立病院臨床工学科)/塩見基(KKR高松病院ME科)

【目的と内容】

- ・行動目標5の内容を再確認する
- ・5aの医療用ポンプの安全管理において現在進めている教育活動を発表する
- ・5bのチャレンジ項目について深く掘り下げるセミナーを行う
- ・実際に取り組んだ施設の成功体験をご発表頂く

【プログラム】

【総合司会】 田村富美子(日本クリティカルケア看護学会、聖路加国際病院救命救急センター)

11:00~11:10 行動目標5の進め方/長谷川隆一(公立陶生病院救急部)

11:10~11:40 医療用ポンプの安全な使用(仮題)

杉山良子(日本赤十字社事業局医療事業部医療安全課長)

高木雅雄(日本臨床工学技士会、茅ヶ崎徳州会総合病院)

11:40~12:05 VAP予防策とアラーム対応の教育

宇都宮明美(日本集中治療医学会、聖路加看護大学成人看護学)

12:05~12:30 人工呼吸器安全使用のための指針第2版について

磨田裕(日本呼吸療法医学会、埼玉医大国際医療センター麻酔科)

12:30~13:00 ミニシンポジウム「私たちの取り組み」

青野多聞(彦根市立病院臨床工学科)

塩見基(KKR高松病院ME科)

目標7 事例要因分析から改善へ

【講師・ファシリテータ】 河野龍太郎(自治医科大学 メディカルシミュレーションセンター)/安藤廣美(飯塚病院(特任)副院長)/高橋英夫(名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学分野)/井上則雄(株式会社竹中工務店 大阪本店 TQM推進事務局)

【目的と内容】

行動目標7ではこれまで、個別事例要因分析を進めるための手法や考え方についてツールの浸透を進めると共に、そこから得られた分析結果を対象とした改善プロジェクトの進め方のステップの紹介をおこなってきました。

今回のセッションでは、それらのツールや考え方を効果的に展開するために以下の3点を中心に

説明し、議論を進めていきます。

- ① 個別事例要因分析で、問題点を掘り下げるための着眼点と分析を進めるためのポイント
- ② 個別事例要因分析からプロセス分析、組織的分析への展開
- ③ 組織的改善をどこから進めるのか

【プログラム】

- 11:00～11:40 個別事例要因分析の着目点とポイント(仮題)(河野龍太郎)
- 11:40～12:20 個別事例要因分析から統計的要因分析と改善プロジェクトの立上げについて(井上則夫)
- 12:20～12:30 院内改善プロジェクトの支援の案内(井上則夫)
- 12:30～13:00 質疑応答とディスカッション(河野龍太郎、井上則夫)

目標別分科会B ※※申込時に下記から選んでください

目標S 安全な手術—WHO指針の実践

【講師・ファシリテータ】 西脇公俊(名古屋大学医学部附属病院麻酔科)／ミルズしげ子(長野日本赤十字病院看護部手術室)／石橋まゆみ(昭和大学附属病院看護部手術室)／市川高夫(新潟県立六日町病院麻酔科)神里興太、大城匡勝、宮田裕史、須加原一博(琉球大学医学部附属病院麻酔科)／安田あゆ子(名古屋大学医部附属病院医療の質・安全管理部)

【目的と内容】

世界中の手術安全を高めるためにWHOから「安全な手術のためのガイドライン2009」が発表された。このガイドラインでは、手術安全チェックリストの導入が推奨されており、その有効性もすでに実証・報告されている。ただ、チェックリストの導入には、時に困難を伴うこともあるし、導入されても十分に生かされていない場合も考えられる。そこで、本セッションでは、日本におけるチェックリスト導入状況を報告、実際の導入事例の紹介、そして今後導入するにあって役に立つと思われるツールの紹介をする。それらを通して、チェックリストの新たな導入をサポートすると共に、現在使われている施設においても磨きをかけるためのヒントを提供したい。

また、今回のガイドラインの10項目目にサージカルアップガースコアのチェックとサーベイランスの確立が推奨されている。この新たなスコアについて解説を加えると共に、日本の病院における実証データを提示する。また、導入効果を測る臨床指標の標準化について提案し、導入効果を目に見えるようにする日本の実情に合わせた方法も皆さんと一緒に考えていきたい。

1. 「イントロダクションと麻酔科学会認定病院での手術安全チェックリスト導入状況アンケート結果」
西脇公俊(名古屋大学医学部附属病院麻酔科)
2. 「手術安全チェックリストの一般病院での導入事例の紹介」
ミルズしげ子(長野日本赤十字病院看護部手術室)
3. 「手術安全チェックリストの大学病院での導入事例の紹介」
石橋まゆみ(昭和大学附属病院看護部手術室)
4. 手術安全チェックリスト導入のためのツール紹介
市川高夫(新潟県立六日町病院麻酔科)
5. 「サージカルアップガースコアの紹介と琉球大学におけるその有用性の検討」神里興太、大城匡勝、
宮田裕史、須加原一博(琉球大学医学部附属病院麻酔科)
6. 「手術安全チェックリストの導入効果を測る臨床指標の標準化」
安田あゆ子(名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部)

目標3a 経鼻栄養チューブの安全な実施

【講師・ファシリテータ】 風間敏子(台東区立台東病院)／杉本こずえ(新葛飾病院)／須田喜代美

(竹田総合病院)／高橋久美子(宮城こども病院)／梶原厚子(NPO法人あおぞらネット)／川上瑠夏(京都市立東総合支援学校)／山元恵子(学校法人浦山学園 富山福祉短期大学)

〈テーマ〉 子どもの経鼻栄養チューブの挿入確認と管理

〈目的〉 子どもの安全な経鼻栄養チューブの挿入と管理を目指して、ひと・もの・わざ・ケア・管理について考えてみましょう!!

今回は「子どもの経鼻栄養チューブの挿入確認と管理」を、病院や在宅訪問、特別支援学校における経鼻栄養チューブの挿入確認・固定の工夫等を報告してもらい、小児患者の安全な経鼻栄養チューブの挿入と管理についての知識・技術・ケアのスキルを高める交流会とします。

【内容】

支援チームでは、これまで2009年には経鼻栄養チューブの挿入確認のための教材としてDVDを作成、対象病院4000枚を配布、2010年には確認のためのpH試験紙の無料配布、そして2011年にはK. Kインターメディカ社から「写真でわかる経鼻栄養チューブの挿入と管理」を出版しました。しかし、子どもの経鼻栄養チューブの管理方法や、NICU、重度の心身障害児の場合の特殊なわざやコツが各施設で工夫されているながら、支援チームに問い合わせが寄せられてもお答えできませんでした。今回はこれらの技術や工夫を披露していただくと共に、小児の標準的な経鼻栄養チューブの挿入の確認と管理と栄養剤注入直前の確認のためのマニュアル作成と推奨対策の検討に向けての交流会を開催します。小児看護分野に携わっている方々の多くの参加をお待ちしています。

【プログラム】

〔司会進行〕 台東区立台東病院 風間敏子

14:00～14:10 主旨説明 OTIMS新葛飾病院 杉本こすえ

14:10～14:40 問題提起 子どもの経鼻栄養チューブ挿入と管理の現状と課題
須田喜代美(竹田総合病院)

14:40～15:40 施設発表 「こどもの経鼻栄養チューブ挿入と管理スキル」

1. 小児専門病院・NICUにおける経鼻栄養チューブの管理

宮城こども病院 高橋久美子

2. 小児在宅支援活動と経鼻栄養チューブの管理

NPO法人あおぞらネット 梶原厚子

3. 特別支援学校における経鼻栄養チューブの管理特別支援学校

京都市立東総合支援学校 川上瑠夏

15:40～16:50 G-W 「子どもの栄養剤注入直前の確認マニュアルの作成」

16:50～17:00 まとめ 山元恵子

目標6 急変時の迅速対応

〔講師〕 野々木宏(静岡県立病院機構静岡県立総合病院)／高橋英夫(名古屋大学院医学系研究科救急・集中治療医学分野)／安宅一晃(大阪市立総合医療センター集中治療部)／児玉貴光(聖マリアンナ医科大学救急医学)／川嶋隆久(神戸大学病院救命救急科)

〔司会〕 川嶋隆久(神戸大学病院救命救急科)

【プログラム】

講義 1. 「院内ウツタイン調査について」 野々木宏(静岡県立病院機構静岡県立総合病院)

2. 「いま病院で起こっていること(事例紹介)・RRSの必要性」

高橋英夫(名古屋大学院医学系研究科救急・集中治療医学分野)

3. 「RRSとは・RRS導入のための準備・起動基準」

安宅一晃(大阪市立総合医療センター集中治療部)

4.「RRSに必要な4つのコンポーネント」 児玉貴光(聖マリアンナ医科大学救急医学)

小グループディスカッション・発表

講義 5.「病院での取り組み1」 川嶋隆久(神戸大学病院救命救急科)

6.「病院での取り組み2」 児玉貴光(聖マリアンナ医科大学救急医学)

目標8 患者・市民の医療参加

【講師】 江原幸彦(肺塞栓症・深部静脈血友の会)／藤井栄子(春日部市立病院相談支援室)／吉川孝子(春日部市立病院副看護部長)／平野和裕(佐賀大学医学部付属病院薬剤部)／石川弥生(富士宮市立病院医療安全管理室)

【プログラム】

話題提供

1. 肺血栓塞栓症の予防のために 肺塞栓症・深部静脈血友の会 江原幸彦
2. 患者図書室を設置して 春日部市立病院相談支援室 藤井栄子
春日部市立病院副看護部長 吉川孝子

報告とディスカッション

1. 病院における「お薬手帳」の活用 佐賀大学医学部付属病院薬剤部 平野和裕
2. 安全は名まえから～さらに定着させ効果をあげる工夫～ 富士宮市立病院医療安全管理室 石川弥生

■お問い合わせは医療安全全国共同行動事務局へ

E-mail: secretariatpartners@kyodokodo.jp

「医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門」が始まります

2010度から毎年開講されている「医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門」が今年も6月から始まります。今年度が最終となります。どうぞお早めにお申し込みください。

日程：2012年6月17日(日)、7月15日(日)、8月19日(日)、9月30日(日)、10月21日(日)

会場：自治医科大学 地域医療情報研修センター(栃木県)

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/120617.pdf> をご覧ください。

～講師から～

ヒューマンエラーは不注意や気の緩みだけで発生するものではありません。一生懸命にやってもエラーは発生します。また、対策はヒューマンエラーがなぜ起こるのかを科学的に理解し、理に適ったものでなければ効果が期待できません。これまで航空や原子力では事故の分析を通じて、安全なシステムへの努力が重ねられてきました。ヒューマンファクター工学はその事故の分析の中から少しずつ体系づけられ、現在もその努力が続けられています。

今回の講義では医療への適用を前提としたヒューマンファクター工学の基礎知識を紹介し、さらにエラー発生メカニズムをベースにして開発されたImSAFERを用いてヒューマンエラー事象分析の実習を行います。実習により理解が深まり、医療の現場への応用力が養成されると考えています。本年度は昨年よりも分かりやすい資料を用意して、安全で効率の良い医療システム作りのお手伝いをしたいと考えています。

自治医大医学部附属病院 医療安全対策部100K支援チーム

講義担当 河野龍太郎

共同行動事務局の住所が4月から変わりました

共同行動事務局の住所が4月から下記に変わりました。メールアドレスは同じです。

医療安全全国共同行動 事務局 secretariatpartners@kyodokodo.jp

ファクス 054-251-8728(問い合わせ用) 022-265-7550(登録用)

フォーラム・セミナー等のご案内

[「共同行動カレンダー」](#)を定期的にチェックしてご利用ください。イベントのタイトルをクリックすると内容が表示されます。

9目標に関連するフォーラム、セミナー、シンポジウム、講習会

医療安全ワークショップ(すべての目標に関連)

日時：2012年4月28日(土)、29日(日)

会場：京都テルサ府民総合交流センター <http://www.kyoto-terrsa.or.jp/conference.html>

主催：医療安全全国共同行動

* 詳細は [公開ページ/トップ](#) の「医療安全ワークショップ」バナーからご覧ください。

NEW! 医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門(目標7に関連)

日時：2012年6月17日(日)、7月15日(日)、8月19日(日)、9月30日(日)、10月21日(日)

場所：自治医科大学付属病院 地域医療情報研修センター

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/120617.pdf> をご覧ください。

[日本医学シミュレーション学会主催のその他のセミナー]

第8回セデーショントレーニングコース

日時：2012年5月26日(土) 13:00~17:00

会場：兵庫医科大学病院中央手術部

* 詳細は http://www.jsdam.com/index_in.php をご覧ください。

フォーラム・セミナー等のスケジュール

2012年 4月28日(土)、29日(日)	医療安全ワークショップ
5月26日(土)	第8回セデーショントレーニングコース
6月17日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門
7月15日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門
8月19日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門
9月30日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門
10月21日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門

★ウェブマガジンは毎月1回、配信いたします。院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”

ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室

E-mail: secretariatpartners@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>